

教師の魅力

年を重ねると1年があつという間に過ぎてしまいます。卒業式まで残りわずかとなりました。教室から聴こえてくる歌声や子どもたちの笑顔に触れると目がウルウルしてきます。3年生を担当しているときは、「感傷に浸っている時じゃない。入試に向けて必死な思いでいる仲間を支えること！授業、日常生活と最高学年としての姿で最後まで全力で走り切ること！」と生徒たちを鼓舞していましたが、自分が感傷的になる気持ちを抑えるのに必死だったと思います。教員になって35年が経ちました。その間6年ほど学校を離れる機会があり、より実感したのは、教師という職業ほど感動を味わえる職業はないということです。その魅力の一つが、子どもたちが立派に成長し、夢を抱きながら次のステージに向かって旅立っていくという感動的な場面に立ち会えることです。生徒のたくましく成長した姿を目にしたり、「先生、ありがとう！」の一言を聞いたりすることで、それまでの苦勞の全てが大きな喜びにと変わってしまうのです。そんな魅力的でやりがいのある教師という職業にぜひ就いてほしいと願い、機会をとらえては子どもたちに教師を勧めています。「〇〇先生に憧れて、△△の教師になろうと思っています。」「親が教師でその姿を見て、私も教師になろうと思っています。」こんなうれしい声を聞かせてくれる生徒もいます。先日もある保護者の方と話をしていて、「うちの子、学校の先生になりたいと言っているんですよ。」という素敵なお話を聞かせていただきました。「残業時間が多いからな」「ブラックだからな」こんな言葉を返してくれた生徒もいます。現在教職に就いている人、現在教員を志している人、そのほとんどの人は自分の学生時代に憧れる恩師との出会いがあります。憧れをもたれ

る存在であること、働き甲斐、やりがいのある職業であることを、私たち自身が姿で示すことが一番の説得力につながると思っています。学校評価における保護者の方に記述いただいた文章を拝読させていただきました。職員への温かな励ましのお言葉を何人もの方からいただき、涙の出るような思いになりました。心より感謝申し上げます。同時に我々の至らなさにより、不安や憤りを募らせた方もいらっしゃることもわかりました。本当に申し訳ございませんでした。心よりお詫び申し上げます。ご指導いただいたお言葉を全職員で共有し、今後の改善に生かしていきたいと考えております。

西可児中学校区学校運営協議会

来年度から春里小、南帷子小、西可児中の3校で西可児中学校区運営協議会を立ち上げ、コミュニティ・スクール(以下CS)として動き出します。CSとは、学校運営や学校課題に対して、広く保護者や地域住民の皆さんが参画できる仕組みのことです。地域、家庭、学校が手を取り合ってよりよい学校づくり、地域づくりをめざしていくこととなります。CSのメリット・魅力は、職員の異動があっても、地域との組織的な連携・協働体制がそのまま継続できる「持続可能な仕組み」であること、地域、家庭、学校が教育に関わる「目標・ビジョンを共有」できるということ、学校や地域、子どもたちが抱える課題に対して関係者がみな当事者意識をもち、「役割分担をもって連携・協働による取組」ができるということです。地域及び保護者12名の皆さんと3校の校長の計15名を協議会委員として活動をスタートさせます。具体的な取組については、協議会で熟議を重ね来年度以降提案をさせていただきます。ご理解・ご協力よろしくお願ひいたします。

校長 太田 紀宏